

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274100524		
法人名	社会福祉法人寿康会		
事業所名	グループホーム高松		
所在地	静岡県駿河区高松2625		
自己評価作成日	令和7年9月25日	評価結果市町村受理日	令和7年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2274100524-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の退職や体調不良により職員の入れ替わりが続きましたが、それも安定し過酷な状態を乗り越えた職員同士の絆も深まり、新しく入って来た職員も「食事は手作りの物を提供したい」等のこの道に賛同してくれて職場の一体感も出てきました。引き続き入居者様との良い関係を保ちながら看護師でもある施設長の力を借りて体調面でも良好な状態を保っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「朝食以外は手作りの料理を提供する」「広い個室でのんびり過ごす」「毎日を気ままに自由な時間を楽しむ」「人生の終焉最後まで自分らしく生きる」ことを大切に、1ユニット9床のアットホームな雰囲気が培われている事業所です。センター・ド・パーソンケアといった知識を積み機会を設けてはいないものの、一人ひとりの職員が優しく温かな関わりが自然にできることが礎となり、例えば「磨くことが大好きで趣味のように毎日励む利用者にはリサイクルショップで磨く資材を購入する」といった、きめ細やかな支援が満ちています。更に、手作り調理は調理人であった職員が中心となり、小料理屋のレベルで提供されていることにも感心します

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関の見える場所に掲示し共有出来るようにしている。	掲示のほか、毎月の職員会議において唱和を励行しています。短いキャッチフレーズもつくり、口にのぼりやすくする工夫もあり、話材とするように努めています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	カラオケやその他イベントなど開催しつつ最近言われているコロナ感染には充分注意している。	カラオケの指南者が隣の事業所に定期的に来所していることから、事業所も便乗して参加する日常があります。また本年は自治会長の交代があり、速やかに挨拶に出向いてもいます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に大きな活動はしていないがホームに来る見学や相談には積極的に受け入れるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も開催し、活動報告やホームの様子今後の予定など提出し地域の方々にも回覧板にて見てもらっている。	新自治会長は「診療所ができるよ」といった地域情報を届けてくださいます。また、事業所の活動について「これはいいね」と評価くださるメンバーなことから、参会の場が励みにもなっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課、権利擁護、保佐人、介護保険課の方々に相談やアドバイスをいただいている。	生活保護の受給者が5名いて、家族がいない人には保佐人等がついています。担当者とは難儀な問題が生じることも間々あり、そんなときは市役所が間に入ってください、助けられています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正の義務化によって委員会と研修をおこなっている。また身体拘束をおこなう状況がある場合には身体拘束適正委員会にて話し合いをおこない身体拘束廃止に努めております。玄関は夜間以外は開放している。	3か月毎の身体拘束廃止委員会の場で振り返りをおこなっています。また現在1名ミトンが必要な利用者がいる為、一時性・非代替性・切迫性に照らして精査したうえで家族の了承も得て、経過観察中です	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる事は無いと思うが、無意識に言葉で傷つけてしまう事もあり得る為、虐待防止委員会を開催し職員一同虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は出来る限り本人と面談する事に様子現状を見て頂いている為連携は取れていると思う。利用者によっては経済面で大変になっていると感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に気になる事、重視する事など説明と共に充分におこなっているが、分からない事も多い為、その後利用を開始してから微調整を行う事が多い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の要望は出来る限り聞き取り反映させている。必要時は連絡出来ている。	利用者の要望は、居室担当者が主として聞き取っています。衣服の購入や食べたいものなどについては、できるだけ早めに対処して、随時動いています	入用のものを職員が代理で購入していますが、付き添って買い物に出かけることが増えるよう期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き、毎日朝のミーティングで話し合い健康面やケアの面で困っている事等共有する事が出来ていると思う。	職員意見の收受としては、毎日の朝ミーティングと毎月の会議があります。2階のエアコンや乾燥機の設置は職員意見からのもので、進言や提案しやすい風土にあります	法人理事による面談が年1回ありますが、職員の定着率維持または向上のためにも、事業所内部での個人面談の定期実施を期待します
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や努力、実績の把握は出来ている。また新しい職員が来るよう募集している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現場での技術、対応力など確実に向上している。研修は時間が取れず受け入れてなかったが増員し少しずつ研修を受け入れて行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の生活スタイル、重視する部分を会話しながら聞いたり見極めている。また生活していく中で本人の性格などを見てどう対応すべきか考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の家族と入居時に要望や本人の自宅での暮らし方を聞き、その上でどのような暮らしをして欲しいかを聞いている。その後電話や来所時に話をし修正するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援があれば施設内で可能であれば検討し対応するようにしている。また外部サービスで対応出来るものであればそちらも対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	社員一同介護介助が必要な方には出来ていると思う。「家族のように」を合言葉に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望があった場合は外泊、外出は勿論、または医療機関への受診を出来る限り家族の方の介入をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、馴染みの人や、場所などに伺っても無い事が多く、何気ない日頃の会話の中で好きな事など見つかる事が稀にありその際イベントやその場に行く事を検討している。	家族との関係性には常に留意しています。例えば、通院の付き添いで家族と会っていた利用者が通院回数が減って寂しそうなので、家族に来訪をお願いするといった事などがおこなわれています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合えるような関係は基本的に難しいが一部に方向士助け合ったりしていたり、世話をやいたりしてくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、その様なケースは無いが困った事、相談があれば話を聞き一緒に考えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活する中で最低限のルールは守って頂くが、その中で自分の暮らし方ややりたい事、欲しい物などを叶える事は大事にしている。	入居前のアセスメントシート、更には家族と本人からの聞き取りから情報を整備しています。居室担当者が中心となって日々想いを受け取っていて、変更があればアセスメントシートに追記しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしさ大切にしたい為入居時から聞くようにしており、また都度会話をすることで把握をする様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の過ごし方や認知機能、身体機能の低下には気を配っている。気の付いた事はすぐ共有し申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議、申し送りを主な情報交換の場にしてきている。また職員からのアイデア、提案や情報を大事に作成している。	介護計画書の2表の担当者欄に「長男」「次男」と入っていて、チームでつくる事が実践されていることが見え、また「サービス内容」が具体的で実践しやすくなっていることが確認できます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は基本として、健康面や表情や身体面での小さな変化など、気がついたらその場で共有し申し送る事が自然と出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	金銭面や健康面への影響が大きいと予測される問題以外はその場のニーズに関しては対応出来ていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていないが少しでも豊かな暮らしが出来る事を目標に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を受けながら緊急時にも対応できている。治療方針などについても家族に報告、相談を行っている。	看護師を帯同する訪問診療医が月2回来所しています。管理者が看護師なことから医療情報の共有は十分で、手厚い医療提供がおこなわれ、安心な体制に実っています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為、気が付いた事など細かい所まで報告や相談が共有出来ている。またバルーン交換、浣腸、傷の処置など定期的におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してすぐに病院側と相談し入院期間、治療方針、退院の予定まで大まかな日を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでを行っており、最近でわ家族の方が関わるケースも有状況、状態を伝えている。また全体的に重度化している為個々にあったケアを考えていきたい。	法人内の高齢者福祉施設から看取りに係る「急変時・終末期における延命等に関する意思確認書」を取り寄せ、事業所用に書き換えており、前年に立案した目標達成計画を達成しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時にはすぐに施設長に連絡し対応を仰いでいる。応急手当や初期対応に関しては個人差がある職員が連携し介助方法など確認伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施している。地域との協力体制も出来ている。	隣接の障害施設とは日頃から非常時用のトランシーバーを導入して連携を密にしており、訓練も合同で取組んでいます。隣接事業所には屋上があり、避難場所の一つとして位置付けられています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない声掛けで傷つける場合もあり充分来お付けている。浮かない表情や返答が無い場合など無理強いする事をせず、話しかける職員を変えたり時間を置いて対応するようにしている。	呼称は決まっておらず、「～ちゃん」はないものの下の名前前で呼ぶこともあります。利用者の希望ということではなく、職員が本人の性格や距離関係を考えてのことです。職員間では統一しています	四角四面でないことはよいことかと思うものの、狎れあいを生みやすい呼称なことから、振り返る機会が定期的であることを期待します
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様、思いや希望など日常の会話の中で表してくれている。また本人が迷っている時など良く話を聞きどうしたいかを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事に関しては集団生活の都合上こちらに合わせて頂いていますが、それ以外の時間に関しては自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には選べる方は本人に任せている。要望があった場合は一緒に選んだりカタログ通販で探して購入している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は大事にしており、一人一人の好みは把握し苦手な者は付けないようにして代わりの物を出すよう心がけている。また朝食以外は完全手作りをしている。	見た目にもあでやかで美味しい献立が提供されています。訪問時も人参のナムルやインゲンの和え物、鶏肉にも大根のみぞれが乗って、季節の冬瓜の汁物にはショウガがアクセントになっています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や疾患によって食べる量や摂取を控える栄養素などがある為気を付けている。水分量にも気を配り日常の尿量や季節、入浴後など特に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人的にご家族の希望で訪問歯科診療を取り入れている。その他歯磨き入れ歯洗浄剤、マウスウォッシュなどで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく今ある力を維持していけるよう支援している。また一人一人に合った排泄の方法を検討しおむつ交換トイレ誘導している。	トイレはリビングや食堂がある1階に1つ、2階の居室フロアに1つ、総計2つあります。日中テーブル式おむつのという人が4名います。車いすを利用する4名は自走なものの、トイレ介助は必要です	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の管理もしており水分の定期的な摂取にくわえ下剤の服用、浣腸の実施など一人一人に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在午後入浴と施設運営上決まられてしまっているが、曜日や順番など希望により変えている。	週に2回を目安とし、機械浴が2基あり、選べます。ただ、現在は椅子に座ったまま入浴を可能とする機械浴一択になりつつあります。ミスト浴ですが、気持ちがいいらしく、饒舌になる人が多いです	備品庫の整理整頓が進むことを期待します
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や姿勢行動など体調の変化により積極的に休息をとってもらうようにして長時間の車椅子は避けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がいる為管理出来ている。職員にも分かるように服薬している薬の画像、用法、効能、副作用を個人記録に入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については現状厳しいが洗濯たたみ、新聞を折ったりとそれぞれ出来る事は協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在職員も少ないので中々外出出来ない為ご家族様の協力により外食などして頂いている。	以前には花鳥園やサファリパークにでかけたこともあります。現在は職員数に余裕がなく、遠出はできず、内部のイベントを充実させることに力を入れています。家族が連れ出してくださいる人も2名いて、蕎麦屋などでの外食をして帰ってきます	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的に厳しい方も居るが、その中で出来る限り使える範囲で希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は分担して清潔をたもっている。玄関には季節を感じられるよう掲示物イベントなどの写真など置いている。また観賞魚など置いている。	リビング代わりに日中を過ごす部屋には、広いスペースなこともあって、ベッド、ソファ、テーブルとイスのセット等がそこかしこに配置されていて、利用者それぞれの居場所が確保されています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる方はそれぞれテーブルを用意している。最近では気のあった利用者様同士話している姿を時折目にする事増えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時危険が無いものや、欲しい物、馴染みのある物など持って来て頂いている。	カーテン、エアコン、ベッド、観音開きのチェストが予め備わった部屋には、家族写真や作品が置かれています。人によっては歯ブラシセットを自室に置いていて、自由度を感じました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能低下により自立出来る生活を送られる方が減ったが個々に合わせた環境を作れるようにしている。		